教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 共通教育部　　資格： 教授　　氏名： 木村　麻衣子

研究分野	研究内容のキーワード
第二言語習得・異文化コミュニケーション	プロトタイプ理論・言語政策・語彙習得・韓国英語教育
学位	最終学歴
文学修士 文学士	南山大学大学院人間文化研究科言語科学専攻博士後期課程満期退学 武庫川女子大学大学院文学研究科英語英米文学専攻修士課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.学習アドバイジングのパイロット実践	2024年2月1日～2024年3月22日	希望者を募り、特別学期期間中に、オンラインで、英語学習のアドバイジングを週１回のペースで実施した。参加者ごとに、最終目標を設定し、目標達成のための学習計画をたて、毎週計画の見直しを行いながら、２ヶ月間のアドバイジングを実践した。（参加者3名）
2.３行英文添削	2023年4月20日～現在	英文ライティングトレーニングの希望者を対象に、LINEによる、３行英文添削（毎日テーマを送信し、そのテーマに沿った意見を３行で作成する）を土日を除く毎日実施している。
3.インプロゲームの導入	2022年9月18日～	心理的安全性が担保された「失敗が許される場」としての授業を展開するため、インプロゲームをウォーミングアップとして導入
4.オンラインアプリケーションの利用	2022年4月1日～現在	Quizlet, Kahoot!を含む、学習目的としてのオンラインアプリケーションの利用　受講生の自主学習用にQuizletを、授業内の理解確認テストの一つとして、Kahoot!をそれぞれ積極的に活用している。
5.学習アドバイジングのパイロット実践	2022年2月1日～2022年3月31日	希望者を募り、特別学期期間中に、オンラインで、英語学習のアドバイジングを週１回のペースで実施した。参加者ごとに、最終目標を設定し、目標達成のための学習計画をたて、毎週計画の見直しを行いながら、２ヶ月間のアドバイジングを実践した。（参加者１１名）
6.オンライン学習相談	2021年9月1日～	Google Meetによる授業外英語学習相談を希望者を対象に行なっている。
7.英語チャレンジコース English Two-Day Camp（キャンパス内で実施の日帰り２日間プログラム）	2020年2月17日～2020年2月18日	英語チャレンジコース在籍学生のための英語合宿（日帰り２日間）をネイティブ教員２名主導のもと、実施した。１年生から４年生、全学年から参加者があり、縦のつながりをもつ良い機会にもなった。 （参加人数１２名）
8.反転授業の導入	2019年9月15日～現在	受け身になりがちなライティングの授業において、反転授業のスタイルを導入する。テーマに沿って作成したエッセイをもとに、プレゼンテーションを行い、文法・表現チェックは担当者が行い、続けて、エッセイの内容そのものについて、受講生同士でディスカッションをしたり、お互いに評価しあうピアレビューの場となるよう授業構成を工夫。
9.交換留学等希望者へのサポート	2018年4月1日～現在	学内の交換留学制度を利用した海外留学を含め、短期・長期を問わず留学を希望する学生へのIELTS/TOEFL学習サポート　特に、エッセイライティングについてのサポートを行っている。
10.英語チャレンジコース英語宿泊合宿	2018年3月1日～2018年3月2日	英語チャレンジコース学生を対象にネイティブ教員の全面協力を得て、春期英語合宿を一泊二日で、丹嶺研修センターにおいて実施した。OG、現役、新入メンバーが参加するアクティブな研修となった。 （参加人数１８名）
11.TOEIC受験対策（レベル別自主対策講座）	2017年9月～現在	「TOEICを受験してみたいが、対策方法がわからない」「点数が伸び悩んでいる」など、TOEIC関連の学習相談に応じ、適宜６限目等を利用し、希望者を募り、学習

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		機会を提供している。（各学期５～６回程度）
12.クリティカル・シンキングの導入	2017年4月～現在	共通教育部であらたに導入された初年次ゼミ（現「学び発見ゼミ」）において、「考える力」を養うための授業を担当している。三重大学教育学部南学教授から「楽クリシンゲーム」というあらたなクリティカル・シンキング学習法についてアドバイスを受け、「脱受売りのための考える力」（2019年度より「初めて学ぶクリティカル・シンキング」・2021年度は「初めての言語習得と異文化理解」２０２２年度より「初めてのプレゼンテーション」）の授業内でゲームという実践形式を用いながら「クリティカル」に考える習慣をつける訓練を行っている。また日々の思考トレーニングの一環として、街中で気づいた看板をグループLINEに送り、受講生同士で「クリティカル」に指摘しあう練習を推奨している。
13.mwu.jpを利用したプレゼンテーション学習	2017年4月～2020年3月	英語チャレンジコース開講科目、プレゼンテーション関連授業(Preparation for PresentationI・II：2018年度よりBasics for Presentation I・II）において、外国語教育推進室協力のもと、プレゼンテーションの成果を学生および担当教員間でシェアするため、mwu.jpを利用し、グループ内公開している。
14.英語チャレンジコース英語宿泊合宿	2017年3月1日～2017年3月2日	チャレンジコース学生を対象にネイティブ教員の全面協力を得て、春期英語合宿を一泊二日で実施した。前年度は有恒寮で宿泊、アクティビティは教室で行う形態であったが今年度は丹嶺研修センターで実施した。 （参加人数２０名）
15.LINEを利用した授業外学習支援	2017年3月～現在	クラス単位でLINEグループを作り、授業外での質問に回答したり、全体でディスカッションしたりするなど、コミュニケーションの場を設けている。英語のクラスにおいては、できるだけ英語でやりとりをしながら、新しい表現を覚えたり、文法ミスをお互いに指摘したりアクティブに連絡を取り合っている。 (LINEを持たない学生、グループに入る事を希望しない学生には別途個別対応をしている。)
16.英語チャレンジコース英語宿泊合宿	2016年3月25日～2016年3月26日	チャレンジコース学生を対象に初めての試みとして、ネイティブ教員の全面協力を得て、春期英語合宿を一泊二日で実施した（有恒会館利用）。今後長期休暇中に継続して実施する予定である。 （参加人数２０名）
17.夏期休暇中のメール配信課題	2014年07月～2014年09月	2014年度より開講の英語チャレンジコースの受講生１４名を対象に、夏期休暇中、毎週課題をメールで配信し、受講生の英語学習時間の確保につとめた。
18.アクティブ・ラーニングの導入	2012年04月～現在	コンセンサスゲームや、パートナー探しゲームなどを、コミュニケーションをテーマとした授業に導入し、学生自ら発言し、対話を必要とする場面を多く設け、教員対受講生の双方向にとどまらず、受講生個人対受講生複数,受講生個人対受講生個人などさまざまな形で交流をはかりながらの授業展開を心がけている。 また、クラス規模に応じ、コメントシート提出を毎時間求めることで、一方的な情報の伝達に終わることが無いよう、学生が意見を自由に述べることができる場を提供している。
19.モチベーションを高める工夫	2010年～現在	TOEIC関連、言語表現関連クラスともに、外的動機付けに配慮し「資格を取得する」ことを目標の一つに授業を構成。話しことば検定・TOEIC, TOEFL, 英検など、資格に関する情報を積極的に学生に提供することで、受験を促している。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		TOEICミニ模擬試験を実施し予想点数を算出したり、英検１次合格者を対象にした2次面接練習なども行っている。
20.授業外学習の取り組み	2008年4月～現在	授業時間外に、リスニング課題に各自で取り組めるように、出版社から許可の取れたテキストや、その他、著作権上問題のないリスニング教材を準備し、授業との連携もはかりながら受講生の学習時間を確保するようつとめている。 また、「スキマ時間」を有効利用するために役立つ、スマホアプリ等についても情報交換しながら、適切な使用を促している。また英文ライティングの添削学習を行っている。対面対応の他、メール、LINEなどを通じ、基礎のライティング練習から、パラグラフライティングの練習まで、希望に応じ適宜対応している。
21.英語発音矯正個別指導	2007年4月～現在	英語の発音を矯正したいと希望する学生にオフィスアワー等の時間を利用して個別指導をしている。 長期休暇中にも練習の継続を希望する学生には、スカイプを利用した練習を適宜行っている。 2019年度より、LINEや、録音による遠隔指導も実施しており、発音練習を希望する学生は増えている。
22.英語スピーチ/プレゼンテーション活動のサポート	2001年9月～現在	スピーチコンテストへの出場を希望する学生へのスピーチ練習の補助を行っている。これまでに武庫川女子大学Oratrical Contest出場学生のうち１名が優勝、5名が予選を通過している。 その他、学外へのスピーチコンテストへの参加の奨励、スピーチ練習会の開催などを行っている。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.Seoul Japanese Toastmasters Club VPE	2024年9月1日～現在	ソウルに本部を置くトーストマスターズクラブにおいてVPE（教育副会長）を担当し、毎月の例会の役割配当を担当している。
2.東京ハングルToastmaster Club VPE（教育担当）	2024年9月1日～現在	クラブ内において、各メンバーのスピーチ進行度合いのチェックを行い、終了後は、アメリカ本部のサイトにて、レベル完成（終了）の操作を行うなど、会員の進捗度を調整する
3.JETMトーストマスターズクラブ　VPPR（広報担当）	2023年7月1日2024年6月30日	韓国（ソウル）のJETMトーストマスターズクラブの役員（広報担当）を務める
4.JETMトーストマスターズクラブSAA（会場担当）	2022年7月1日2023年6月30日	韓国（ソウル）のJETMトーストマスターズクラブの役員（会場担当）を務める
5.関西トーストマスターズクラブ　VPM（メンバー管理担当）	2022年7月1日2023年6月30日	関西トーストマスターズクラブにて、所属メンバーリスト管理及び、見学問い合わせ・新規入会者への対応を行う。
6.中部地区英語教育学会三重大会実行委員（会計担当）	2006年04月～2007年07月	中部地区英語教育学会三重大会の事務局員として会計を担当
7.関西トーストマスターズクラブ秘書業務	2000年4月～2001年3月	アメリカに本部を置く、プレゼンテーション研究会日本支部（関西／神戸）において、クラブ間情報交換、スピーチコンテスト開催事務局補佐などの業務を担当した。
8.大阪トーストマスターズクラブ広報担当	1997年4月～1998年3月	アメリカに本部を置く、プレゼンテーション研究会日本支部（大阪）において、阪神間近辺在住者を中心に広報活動を行った。
4 その他		
1.6th International Students Presentation Forum	2023年6月30日	フィリピンの大学主催の、学生プレゼンフォーラムに学生3名が出席するにあたり、アドバイザーとして参加。
2.プレゼンテーションパフォーマンスのアドバイス（外部依頼：三重大学）	2022年8月13日	三重大学教員より依頼を受け、国際学生プレゼーション大会に出場する学生へのプレゼンパフォーマンスに対するアドバイスを行った。
3.5th International Students Presentation Forum	2022年7月13日	フィリピンの大学主催の、学生プレゼンフォーラムに

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		学生４名が出席するにあたり、アドバイザーとして参加。
4.教育学科MFWI留学事前研修 TOEIC講座担当	2018年6月5日	教育学科MFWI留学プログラム事前研修講座の一つ、TOEIC対策講座を担当した。TOEIC未受験者も含めたプログラム参加学生を対象に、受験ガイダンス（試験形式の詳細解説）及び、留学中の自主学習の方法等についてガイダンスを実施した。今年度は、ガイダンスの中に模擬問題に挑戦する時間をあらたに設けた。
5.教育学科MFWI留学事前研修 TOEIC講座担当	2017年6月2日	教育学科MFWI留学プログラム事前研修講座の一つ、TOEIC対策講座を担当。TOEIC未受験者も含めたプログラム参加学生を対象に、受験概要説明及び、留学中の自主学習の方法等についてガイダンスを実施した。
6.教育学科MFWI留学事前研修 TOEIC講座担当	2016年6月4日	教育学科MFWI留学プログラム事前研修講座の一つ、TOEIC対策講座を担当。TOEICで点数を取るための小手先のテクニックではなく、真の英語力を習得するための学習法についてガイダンスを実施した。
7.人間学研究会主催TOEIC対策講座	2007年10月	大学人間関係学科／短期大学部人間関係学科 人間学研究会主催のTOEIC講座を担当
8.三重大学客員研究員	2007年9月1日～2008年3月31日	国内研修制度を利用し、三重大学教育学部早瀬光明教授の元で半年、客員研究員として英語教育の研究に専念する機会を得た。
9.人間学研究会主催TOEIC対策講座	2006年10月	大学人間関係学科／短期大学部人間関係学科 人間学研究会主催のTOEIC講座を担当
10.人間学研究会TOEIC対策講座担当	2005年10月	大学人間関係学科／短期大学部人間関係学科 人間学研究会主催のTOEIC講座を担当
11.人間学研究会主催TOEIC対策講座	2004年10月	大学人間関係学科／短期大学部人間関係学科 人間学研究会主催のTOEIC講座を担当
12.武庫川女子大学オープンカレッジ	1999年4月～2007年3月	武庫川女子大学オープンカレッジにおいて、外国語講座「英語再入門初級」および「英語再入門中級」を担当した。（２０代から７０代までの様々なバックグラウンドをもつ受講生が集う、生涯学習の場を提供する講座の一つ）

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.TOEIC960点	2000年07月	
2.高等学校教諭専修免許状（英語）	1992年03月	
3.高等学校教諭一種免許状（英語）	1992年03月	
4.中学校教諭専修免許状（英語）	1992年03月	
5.中学校教諭一種免許状（英語）	1992年03月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.神戸ポートエンジェルス	1997年4月1日～1999年3月31日	神戸国際観光協会神戸ポートエンジェルス１６期生 職務内容：神戸港に入港する外国客船（エリザベス２世号など）船内イベント司会通訳及び神戸市内観光案内業務など
4 その他		
1.神戸英語教育学会紀要編集委員	2024年10月1日～2025年3月31日	神戸英語教育学会紀要４０号の編集委員
2.神戸英語教育学会紀要編集委員	2023年4月30日～2024年1月31日	神戸英語教育学会紀要３９号編集委員
3.Toastmasters International Japan Area F Contest	2023年3月12日	日本国内のトーストマスターズクラブの中の、Area Fにおいて、2022年度のToastmasters International Area Contest 開催サポートメンバーの役割を担う
4.Toastmasters International District 93 Area Speech Contest	2022年3月26日	2021年度の韓国トーストマスターズクラブのAreaスピーチコンテスト開催サポートメンバー
5.神戸英語教育学会紀要査読委員	2021年12月	神戸英語教育学会紀要作成にあたり、２編の投稿論文について査読を担当した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
6.神戸英語教育学会事務局長	2020年12月1日～	学会紙の発行（年一回）、年次研究大会の運営、新会員の募集など、学会事務に関わることを担当する窓口業務を担当している。
7.神戸英語教育学会紀要査読委員	2020年12月	神戸英語教育学会紀要作成にあたり、２編の投稿論文について査読を担当した。
8.武庫川女子大学学校教育センター紀要査読委員	2020年8月	学校教育センター紀要（６巻）の投稿原稿一編の査読を担当した。
9.神戸英語教育学会紀要査読委員	2019年10月	神戸英語教育学会紀要作成にあたり、２編の投稿論文について査読を担当した。
10.神戸英語教育学会紀要査読委員	2018年10月	神戸英語教育学会紀要作成にあたり、２編の投稿論文について査読を担当した。
11.神戸英語教育学会事務局長	2010年4月～2017年5月	神戸英語教育学会事務局長として、定例会開催・学会紀要編集及び発行・会計（会計は2014年4月より事務局長の職務内容から分離）全般をとりまとめた。
12.神戸英語教育学会紀要編集委員	2010年4月～2016年3月	投稿論文のカテゴリーに合わせ、査読者を選定、依頼、査読結果の集計、印刷会社との調整などの編集作業の窓口を担当した。
13.インターカレッジ西宮　大学共同講座	2009年3月5日	インターカレッジ西宮の「常識のうそほんと」をテーマにしたリレー講座を担当。「和製英語のうそほんと」と題し、様々な「和製英語」の語源、使用に関わる注意点などについて講義を行った。
14.神戸英語教育学会紀要査読委員	2007年10月	神戸英語教育学会紀要作成にあたり、２編の投稿論文について査読を担当した。
15.神戸市立高等学校英語スピーチコンテスト審査員	2002年10月～2006年10月	神戸の市立高等学校主催の英語スピーチコンテスト予選の審査員を担当 （2005年は審査委員長）
16.実用英語技能検定試験二次面接委員	1996年04月～2007年04月	英検の二次面接委員を担当　担当級は準１級～３級

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.クリティカル・シンキングのすすめーAn Invitation to Critical Thinking	共	2016年03月01日	南雲堂	河原俊昭・高垣俊之・斉藤早苗・Carolyn Wright・木村麻衣子 中級レベル以上の学習者を対象にした大学生用学習書で、ロジカル・シンキングと同様に、注目を集めている思考法、クリティカル・シンキングと、英語力を同時に獲得するため様々なテーマに沿って「批判的に（正しく）思考する」トレーニングを行うことを目的に書かれた本である。 木村の担当ページは次の通り。 pp.13-18(Write Your Problems on a Note Pad 問題点をメモ帳に書いてみよう), pp.31-36(Xenophobia 外国人嫌い), pp.91-96(Facing Ambiguity 曖昧さと向かい合う)。
2.小学校英語マルチTips 自信を持って授業を進めるために	共	2011年12月20日	東洋館出版社	浅間正通・荒尾浩子・梅本孝・木村麻衣子・伊東多恵・中村善雄・山下巌 小学校英語活動に世界がどう取り組んでいるのか世界１０か国の状況と、学習アイディアのヒントを掲載している。英語教育のバックグラウンドが乏しい教師が圧倒的多数である実情を受け、現場教師の不安や戸惑いを和らげることを目的に編まれた書籍である。 木村の担当箇所は次の通り。 「すぐに役立つプラクティカルTIPS」No.6 pp.37-38 「大韓民国」pp.163-176
3.Multicultural Japan Reading & Writing	共	2010年02月24日	南雲堂	Carolyn Wright・Colin Sloss・斉藤早苗・河原俊昭・高垣俊之・木村麻衣子 「多文化社会日本」の道しるべとなるよう、言語や文化に関する問題意識を切り口に英語総合力を養成するよう作成された大学生用英語学習書である。 木村の担当箇所は次の通り。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
4.Around the Globe 異文化理解のための総合英語	共	2010年02月18日	南雲堂	Lesson 9 pp.55-60(おおさかんこくタウンOsakorean Town) Lesson 11 pp.67-72(神戸のインターナショナルスクール International Schools in Kobe) Lesson 12 pp.73-78(多言語で放送するラジオ局 A Multilingual radio Station) 浅間正通・山下巌・Derek Eberl・荒尾浩子・梅本孝・木村麻衣子・中村善雄 異文化理解のための総合英語学習を目的に作成された一冊。TOEICのためのトレーニングも同時に行える編成になっている。　各章１国、計１５カ国をピックアップし、それぞれの国の特徴を学習しながら英語力を伸ばすことを目的としている。 木村の担当箇所はUnit8 Korea-Leisure Time pp.34-38
2 学位論文				
1.English Language and Sex 英語における言語と性差	単	1992年3月31日	武庫川女子大学大学院文学研究科英語英米文学専攻修士課程　修士論文	英語における、女性・男性それぞれに使用が限定される、いわゆるタブー語を含めた、セクシスト言語全般を検証。女性解放運動以降、政治面のみならず、言語面にも、様々な変化がみられはじめた。性差別表現をなくすため、どのような工夫がなされているかについても同様に調査を行った。アメリカの言語学者らが行った実地調査を参考に、英米文学で使用されている台詞、詩などをサンプルとして利用し言語使用の分析を行うとともに、英語母語話者が発話上男女の区別をどのように認識しているかのについて、日本在住の英語母語話者を対象に、アンケート調査を実施し、結果分析を行った。 いわゆるPolitical Correctnessに対する意識が英語使用圏（英語母語話者）においては高く、Fireman⇒Fire fighter, Waiter/Waitress ⇒Waitperson などと性を表す接尾辞の変化がいち早く取り入れられていることがわかった。また、初期の言語学習における性差に対する意識付けが、社会言語学的側面の性差別表現に,大きく影響を与えることがあきらかになった。社会言語学的に、英語は、言語変化が大変激しく、引き続き、男女の会話の語用論的調査など、「女性語」「男性語」を分析するために、継続すべき調査課題もあきらかになる結果であった。
3 学術論文				
1.インプロを取り入れた学習パッケージ作成に向けたパイロット実践（査読有）	共	2025年3月31日	神戸英語教育学会紀要Vol.40	木村麻衣子・荒尾浩子 応用インプロとして、英語の授業においてインプロゲームを取り入れることが受講生の心理的安全性にどのように影響を及ぼすのか、授業現場でのパイロット実践をもとに分析した。
2.Exploring the Emotional Dynamics of AI-Assisted English Learning（査読有）	共	2024年12月30日	GEN TEFL Journal Vol.9 E-ISSN 2520 209X	木村麻衣子・荒尾浩子 Artificial intelligence (AI) has transformed English as a Foreign Language (EFL) education, offering tools that simulate conversational practice and provide personalized feedback. However, emotional dynamics in AI-assisted learning remain underexplored. This study examines the emotional impressions learners form while interacting with AI conversational tools and investigates whether AI can replicate human-like emotional connections. Twenty Japanese university students used the AI-integrated platform English Central and evaluated their experiences using the Godspeed Scale. Results show high ratings for intelligence and safety but low scores for animacy, limiting emotional engagement. This paper discusses implications for AI design in language learning, the evolving role of educators, and recommendations for balanced AI integration. Keywords: AI-assisted learning; emotional dynamics; anthropomorphism; language education; Godspeed Scale
3.A Case Study of the Effects of Online Classes on Japanese Learners	共	2022年12月	GEN TEFL Journal Vol.7	木村麻衣子・荒尾浩子 英語ライティングクラスを対象に、オンライン授業（遠隔ライブ・一部オンデマンド含む）が学習面のみならず、情緒的にどのような影響を与えるのか半期にわたり記録をとり、検証した。対面授業で

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
of English（査読有）				は発言を避ける傾向にあると回答した学生の中に、「オンライン授業では、個別対応のため、周りを気にする必要がなく、毎時間質問をかかさなかった。ライティングへの理解と意欲が高まった」という趣旨の自由記述をした学生が複数いたことである。また、教員側の気づきとして、対面授業では、合理的配慮を必要とする学生と、そうではない学生のバランスが難しいと感じる側面（ペアワーク等）において、特にオンデマンド授業では考慮する必要がなかったため、すべての学生に同じ学習機会を提供することができるという確認ができた。
4.A study of EFL vocabulary learning with online application Quizlet（査読有）	共	2022年1月31日	神戸英語教育学会紀要KELT Vol.37	ロペス・カレン、木村麻衣子、荒尾浩子 オンラインアプリケーション、Quizletを利用した、語彙学習が、学習者にどのような影響を及ぼすのか検証した。対面授業における語彙学習と、自律的学習の一つとして提供するQuizletを利用した語彙学習の比較調査を含む。pp.3-26
5.Multisensory Approach to Teaching reading for Young EFL Learners（査読有）	共	2021年12月	GEN TEFL Journal, 6	(科研課題番号21K00785) 荒尾浩子・木村麻衣子 英語を学習しはじめたばかりの、小学生を対象に、マルチセンサリーを考慮したあらたな学習法が学習者の読み書きにどのような影響を与えるのか検証した。
6.New Teaching Method in Vocabulary Learning Based on Prototype Theory - The Case of Katakana-English（査読有）	共	2021年1月31日	神戸英語教育学会紀要 第３６号	木村麻衣子・荒尾浩子 カタカナ語が日本人英語学習者の語彙習得に与える影響を、「正」の影響に軸足をおき述べた。カタカナ語の中でも特に「消耗語」に分類される若者の間で一時的に流行している表現に着目し、一般語の定着との比較検証を行った。
7.Introducing Literacy to Young English Learners（査読有）	共	2019年12月	GEN TEFL Journal Vol.4	（科研課題番号18K00828)荒尾浩子・木村麻衣子 英語を母語とする子どもの文字発達をEFL環境にある日本人英語学習者（子ども）に応用する可能性を探ることを目的に「読む」活動に主眼を置き、比較実験を実施した。最終的な目標は、日本の小学生が外国語としての英語を学習するにあたり、ENLの子どもの発達を転用できる可能性がないか確認することである。pp.1-15
8.第二言語習得研究からみた早期英語教育と発音習得の可能性に関する一考察　－日本人英語学習者を対象に－（査読有）	共	2019年1月31日	神戸英語教育学会紀要 第３４号	（科研課題番号18K00828)荒尾浩子・木村麻衣子 グラトラ(Grammar & Translation)の場面で目立つ存在ではないのに、いわゆる「きれいな発音」をする日本人英語学習者と早期英語教育の関係を調査するため、２０名(英語専攻及び英語非専攻学生の混合）を対象にネイティブ話者（アメリカ人／カナダ人）による、ルーブリック評価を用いた発音判定を行った。並行して、対象学習者の英語学習歴についてアンケート調査を行い、結果を統計分析し、傾向と問題点をまとめた。アプリの発達で、簡単に発音チェックが行えるようになった時代において、「人」が判定することで、学習のモティベーションに影響が出る可能性が示唆される結果が得られたことも研究成果の一つである。 pp.129-149　第一著者：木村麻衣子
9.Vocabulary Learning for Japanese Learners of English（査読有）	共	2018年12月17日	GEN TEFL Journal Vol.3	(科研課題番号17K02919）木村麻衣子、荒尾浩子 日本人英語学習者が英語の単語の複数の意味をどのように認識、格納し、使用しているのかアンケートに基づき調査したところ、多義語・同音異義語の定義に影響を与える結果を得ることとなり、それらに基づき、語彙の意味形成ネットワークのあらたな提案をしている。 pp.94-105　第一著者：木村麻衣子
10.プロトタイプ理論に基づくあらたな多義語習得へのアプローチ（査読有）	単	2017年1月31日	神戸英語教育学会紀要第３２号	複数の意味を持つ「多義語」の習得に、プロトタイプ理論の意味ネットワークが応用できないか検討するため、中学英語教科書の語彙分析と日本人英語学習者へのアンケートを実施した。それらの結果をもとに、ラネカーの意味派生ネットワークの三角形をモデルとした、中心的意味から周辺の意味への広がりを、学習者にとって理解しやすい形に可視化することを提案した。 pp.57-85

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
11.三重県における言語政策に関するフィールド調査	単	2015年3月31日	日本におけるマイノリティー言語に関する実態調査と言語支援開発　平成２３年度科学研究費補助金、基礎研究C、研究成果報告書、課題番号23420706	三重県(津市・鈴鹿市）在住の外国籍（主にブラジル・フィリピン）の住民に対し、言語的なサポートがどのような形で提供されているのか、外国籍住民の協力を得て実施したアンケート結果をまとめたもの。三重県国際交流協会の協力を得て実施することができた。pp.61-70
12.A Study of Topics in English Textbooks for Mutual Understanding （査読有）	共	2013年10月9日	Science & Knowledge Publishing Corporation Limited Linguistics, Culture & Education Vol. 2014(2014) ID 1	荒尾浩子・木村麻衣子 英語教科書で取り扱われているトピックは、異文化相互理解にどのように役立つと考えられるか、またそのトピックを英語のテキストでとりあげる理由として何が考えられるか、トピックをカテゴリーに分け、質的・量的両側面から考察した。　なお対象とした英語教科書は、日本：２社計６冊　韓国：２社計６冊である。
13.Minority Languages in Multicultural Japan: Improvement of Language Assistance for Non-Japanese Residents（査読有）	共	2013年10月5日	ALAK (The Applied Linguistics Association Korea) 2013, Proceedings	斎藤早苗・高垣俊之・木村麻衣子 「多言語社会としての日本の言語政策」に関わる研究発表 東京池袋、広島県尾道市・福山市、三重県津市の実情報告及び問題点と解決策への提案。pp.137-147
14.A Study of Cultural Factors in Junior High School English Textbooks Approved in Korea and Japan（査読有）	共	2011年3月31日	KOTESOL(Korea Teacher of English to Other Languages) 2010	荒尾浩子・木村麻衣子 日韓それぞれの中学校において採択率１・２位のテキスト（計６冊）の質的分析を行い、文化がどのように扱われているのか,また両国でその扱われ方がどのように異なるのかまた同じなのかGlobal Cultureに焦点をあて比較した。　pp.125-132
15.Field Study Report : English Language Education in Korea -The Case of Tyonpyong Elementary School（査読有）	単	2011年01月31日	神戸英語教育学会紀要第26号	韓国釜山にある東平初等学校における英語授業の視察報告をまとめたもの。 学校としてどのように英語教育に取り組んでいるか、授業で韓国人教員がどのような役割を果たしているか、韓国語が使用される割合についてなど総合的に、一つのクラスを対象に検証を行った分析結果のまとめ。 pp.48-58
16.アジアの子どもは英語をどう学んでいるか一英語教科書の比較から一（査読有）	共	2009年03月25日	中部地区英語教育学会２００６～２００８年度課題別研究アジア英語教科書比較研究プロジェクト論文集	相川真佐夫・磯部ゆかり・江利川春雄・川畑松晴・八田玄二・樋口謙一郎・室井美稚子・木村麻衣子 中部地区英語教育学会の課題別プロジェクトとして、日本・中国・台湾・韓国・ベトナム・カンボジア・北朝鮮の中学校英語教科書をそれぞれの国担当者が独自の視点で分析したものを国別ならびに各国を横断的に比較し、２００６・２００７・２００８の３年間学会で発表をし、最終的にその３年間の集大成としてまとめたものがこの論文集である。 木村担当箇所はpp.42-48
17.アクションリサーチ　ーモティベーションの側面から一（査読有）	単	2009年01月31日	神戸英語教育学会紀要第24号	武庫川女子大学共通教育科目「ＴＯＥＩＣ入門」の受講生協力のもと、アクションリサーチを行い、アクションリサーチの過程が学生のモティベーションにどの程度影響するかを柱に、事前テスト・事後テスト及び事前アンケート・事後アンケートにおける学生の進捗度等を調べた結果をまとめたものである。このアクションリサーチは、、近畿大学三上明洋教授監修のもと、メンターを務める大阪商業大学三上由香氏とペアを組み半年にわたり継続的に実施したものである。pp.21-36
18.韓国英語教育事情	単	2006年12月25日	共通教育レポート第１号	韓国英語教育について、現地初等学校（日本の小学校相当）での授業見学を中心にまとめたもの。韓国人・日本人が全受験者数の９割

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				を占めるといわれるＴＯＥＩＣについても韓国の様子を記載。英語専科教員と、通常の教諭にあたる教員の英語指導に関する聞き取り調査も行っている pp.1-8
19.Application of Motivation Strategy to English Reading Education for Non-English Language Majors（査読有）	単	2001年03月	武庫川女子大学紀要 人文社会学編 49	英語を主専攻としない学生を対象に英字新聞講読を授業内容として取り入れる場合の注意点を、モティベーションストラテジーの側面から、ある１クラスを取り上げ検証。モティベーションをカテゴリーに分け、学生の意識調査と英語力進捗度調査を実施、相関を分析したもの。 pp.41-46
20.日本語と和製英語	単	1997年03月	人間学研究　第12号	カタカナ言葉が日常生活の中にあふれ、英語として意味をなす語と錯覚する人が多くいる。そこで、カタカナ言葉についてのアンケート調査を行い、その結果について、まず否定的な側面から、意味の取り違いについて検証し、その後肯定的な面に目を向けている。言語の使用に関して、恐怖心をあおることを目的としているのではなく、使用する言葉の意味を少しでも追求する興味をいだかせる為のものである。 pp.43-46
21.実践的英語学習法の一考察－英語を専攻しない学生のために	単	1996年03月	人間学研究　第11号	一般に授業で使用されているテープは、ほとんどが訓練用であるため、会話速度が不自然に遅い場合が多く見受けられる。そこで、より実践的な学習方法等を提示するため、筆者がイギリスで録音したテープをもとに教材を作成した。そしてその内容を会話速度・発音方法の両面から考察し、通常は、同時通訳者養成のために用いられる、‘シャドーイング(パラレルシャドーイング含む）’‘リプロダクション’（リピーティング）‘スラッシュリーディング’などの方法をわかりやすく紹介した。 pp.57-62
22.“English Language & Sex”（査読有）	単	1993年11月	Profectus Vol.1	Robin Lakoffの分類を参考に、英語における言語と性差を考察した。Austinの作品、“エマ”から男女の会話部分を取り出し、それぞれを、Lakoffの言うところの男性語・女性語に区分した。そして、“エマ”の書かれた時代背景とも照らし合わせ、英語表現における性差と共に、女性の言語的変化についても、同様に論じた。 pp.1-12
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.シンポジウム「韓国英語教育の多角的考察と研究手法」	共	2011年12月10日	日本アジア英語学会	韓国の英語教育について討論が行われ、パネリストとして韓国英語村の実態についてプサン英語村「グローバルビレッジ」の視察内容などをもとに討議に参加した。
２．学会発表				
1.Exploring the Emotional Dynamics of AI-Assisted English Learning	共	2024年12月7日	GEN Global Educators Network 202４年国際大会	AIを活用した英語学習支援を実施する際のDo and Don’tをパイロット調査を元に分析した。
2.How does ’Improvisational approach’work for Japanese learners of English?	共	2024年8月22日	PAAL International Conference 2024@韓国	ディスカッション、プレゼンテーションといったキーワードを避ける傾向にある日本人英語学習者にとって、何がそれらの活動の足かせとなっているのか、心理学的側面からのアプローチを試行した。
3.異文化理解教育と英語学習－インプロを取り入れた学習パッケージの提案	共	2024年6月2日	神戸英語教育学会第２７回研究大会	大学生を対象とした異文化理解教育において、異文化コミュニケーションを図る際、外国語やその背景文化に対する「理解」だけでは対処できないという現実がある。グローバル化する社会で活躍する人材育成を担うことが期待されている高等教育の現場での、さらなる改善が必要となる。本発表では、インプロ(improvisation：即興)の概念を参照しつつ、大学生対象の英語教育における新たな異文化理解教育方法を試行した実践報告を行う。
4.”The Effect of	共	2023年12月	the 7th Global	文字が読みづらい（読めない）ディスレクシアを持つ日本人英語学

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
Tactile Sense in Learning English Words”		10日	Educators Network International Conference	習者が、英語の文字を認識し、書くということは困難を伴う作業であると考えられる。本研究では、触覚に焦点をあてた学習方法（例えば、デジタルデバイスにデジタルペンを利用して文字を書くなど）が困難解消につながるのではないかという考察を行った結果の発表である。
5.Can ’Improvisation’ boost Japanese learners’ motivation in English class?	共	2023年11月11日	The 32nd ETA International Symposium on English Language Teaching and Learning.（台北:オンライン参加）	日本の英語授業において、ディカッションやグループワークなど、「発言」を伴う活動がスムーズに行えず、教員主導の活動時間が終わると、途端に停滞感が広がる傾向がみられる。「発言」を避ける背景にある「自己検閲」を外すトレーニングとして、人間関係の芸術とも評される「インプロ」を取り入れることで、授業内活動にどのような変化がみられたのか３ヶ月間の考察を行った。授業者がインプロバイザーとなり英語で授業を行う試みである。
6.How the alphabet affect Japanese learners of English	共	2023年10月13日	2023, ALAK (Applied Linguistics Association Korea) International Conference（韓国チェジュ）	荒尾浩子・木村麻衣子 （科研課題番号：21K00785） 日本人英語学習者にとってアルファベット（文字学習）が英語学習の妨げになるケースがある。どのようにアルファベットが学習され、また、指導方法にどのような工夫がなされているのか、国内外のディスレクシア研究を概観しつつ、日本人英語学習者のケースを考察した。
7.活発なディスカッションに向けて・インプロの導入	共	2023年6月3日	第２６回神戸英語教育学会研究大会	木村麻衣子・荒尾浩子 授業中の発言を嫌う傾向にある、日本人英語学習者が、「自己検閲」をはずし、自由に発言し、意見交換するための、心理的安全性が確保された教室環境を作り出すために、インプロ（インプロビゼーション）がどのように影響するのか、検証した。
8.学習アドバイジングの可能性-二ヵ月間の実践報告-	共	2022年12月26日	第２５回神戸英語教育学会研究大会	木村麻衣子・荒尾浩子 高等学校学習指導要領（外国語科）には、「主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」という文言に、学校教育以外の場面においても、生涯に亘り、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う目標を込めている。当然その「自律性」は大学における英語学習にも求められる。 本発表では、英語学習の意欲が高い大学生７名を対象に、「学習アドバイジング」を２ヶ月間実施した記録と、その効果を、「学習者を自律的学習者へと導く」「学習アドバイザーとしての教員の役割」という二つの側面から検証した結果を報告する。
9.A case study of the effects of online classes on Japanese learners of English	共	2022年12月5日	6th GEN TEFL international conference バンコク（オンライン参加）	木村麻衣子・荒尾浩子 コロナ禍における、オンライン授業が学習者に与える影響について、受講する学生・授業を担当する教員それぞれの側の声を聞いた。受講生が望むこと・教員ができることの間に乖離はないか、あれば、問題となることはどのようなことなのか、特に、同期型（ライブ）・非同期型（オンデマンド）それぞれのメリット・デメリットを2022年度前期のあるライティングクラスを例に検証した。
10.New Vocabulary Learning Method Based on EIP (English for Individual Purposes) Approach	共	2022年11月4日	The 31st ETA-ROC International Symposium on English Teaching & Learning, English for Specific purposes International Conference 台北（オンライン参加）	木村麻衣子・荒尾浩子 外国語によるコミュニケーションに支障をきたす最大の要因の一つは語彙知識の不足である。しかし、日本の大学における英語教育の現場では、語彙学習は軽んじられる傾向にあり、高校卒業をピークに、語彙サイズが減少するというデータ報告もある。さらに、一つの授業の受講者は、みな同じ語彙を学習することが一般的である。しかし、「発信目的」の語彙リストは、学習者個々の学習目的や、興味・関心により異なることが望ましい。本研究では、EIP (English for Individual Purposes:個人的目的のための英語)という新たな概念を提案し、その概念のもと、語彙学習を行うことで、日本人英語学習者にどのような効果が期待できるのか検証した。
11.Digital writing for early English learning	共	2022年10月1日	ALAK International Conference & AILA East-Asia	荒尾浩子・木村麻衣子 （科研課題番号：21K00785） GIGAスクール構想により小学校の英語においてもデジタル機器が導入されライティングにも使用されている。ディスレクシアの症状が

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
			Forum 韓国ソウル（オンライン参加）	ある学習者にはマルチセンサリーアプローチが提唱され、手書きによる感覚への刺激が有効となることも示唆されている。その中で手書きとデジタル機器の両方を効果的に利用するためにスタイラスペンの使用について考察した。スタイラスペンのペン先の圧力や形など工夫や洗練により、手書きに近い感覚を生みだすことで早期英語教育における文字の導入期に書くことに困難を覚える学習者の負担を軽減する方法の可能性を提案した。
12.How Online-Classes Affect Students who need special assistance	共	2022年8月7日	Asia TEFL Indonesia (Online参加)	木村麻衣子・荒尾浩子 コロナ禍で、オンライン授業への移行が求められる過程で、「合理的配慮」を要する学生へのサポートが十分行われたか否かの検証を目的に、「合理的配慮」の定義と目的を整理した。また、学生アンケートを実施し、対面/オンライン/ハイブリッド、それぞれのメリット・デメリットをコロナ禍以前と比較検証した。
13.How vocabulary learned in online classes	共	2021年12月11日	GEN TEFL 2021 International Conference	木村麻衣子・荒尾浩子 コロナ禍で始まった、オンライン授業において、語学教育は試行錯誤の連続であった。特に、語彙学習をどのようにすすめるのか、どのようなアプローチが効果的であるのか、また、評価をどのように行うことが適正なのか、多角的に検証した。
14.Multisensory Approach to Teaching Reading and Writing for Young EFL Learners	共	2021年12月11日	GEN TEFL 2021 International Conference	荒尾浩子・木村麻衣子 （科研課題番号：21K00785） ディスレクシアを抱える学習者に、小学校英語の現場でどのようなアプローチが求められるのか、リーディング・ライティングの二方向から検証した。
15.Possibilities of the Use of Orton Gillingham Method for Japanese Young EFL Learners	共	2021年8月20日	Pan-Pacific Association of Applied Linguistics The 25th PAAL International Online Conference	荒尾浩子・木村麻衣子 （科研課題番号：21K00785） ディスレクシアの学習者が英語の文字を認識する過程における問題点を整理し、日本ではまだ研究に用いられることが少ない、OGメソッドをどのように活用できるのか、事例を発表した。
16.How Ideographic Lettr Affects Learning English for Japanese Learners	共	2020年11月13日～11月15日	2020/29th International Symposium and Book Fair on English Teaching ETA-ROC Taipei, Taiwan	荒尾浩子・木村麻衣子 表音文字と、表意文字の違いが日本人英語学習者に与える影響について、小学校で初めて英語を学習する初学者の文字認識の段階からレベル別に調査した結果を発表
17.Better materials of polysemy for Japanese Learners of English	共	2020年7月3日	2020 KATE International Conference (Seoul Korea -Online-)	木村麻衣子・荒尾浩子 英語学習において、「語彙習得」を困難だと感じている日本人英語学習者に対し、特に「多義語」に関して記憶しやすい、習得しやすい学習法・及び教授法を提供することを目的とした研究結果の発表。プロトタイプ理論を応用し、語彙親密度など、学習者個々人にあった、語彙シラバスを提示することを目的としている。
18.New Teaching Methosd in Vocabulary Learning: Based On 'Prototype Theory'-The Case of Janglish-	共	2019年11月22日	ICMFS: International Conference on multidisciplinary Gilipino Studies Cebu Philippines	（科研課題番号17K02919）木村麻衣子・荒尾浩子 カタカナ語（いわゆるJanglish)が日本人英語学習者に与える影響について、ポジティブ、ネガティブ両側面から検証する。英語は苦手、特に単語を覚えるのが嫌い、と英語への拒否反応を示す反面、英語交じりのカタカナ語をどんどん創作していく学習者にとって、カタカナ語が語彙力に良い影響を与える学習法・教授法がないのか、あらたな提案をする。(発表言語が英語のため、カタカナ語をどのように非日本語圏の聴衆に伝えるかが課題である。)
19.Introducing Literacy to Young Learners of English	共	2019年5月18日	GEN (Global English Network) TEFL, Bali, Indonesia	（科研課題番号18K00828)荒尾浩子・木村麻衣子 日本人英語学習者の文字を認識する過程を検証する。ENL (English as a Native Language), EFL (English as a Foreign Language) それぞれの環境における文字認知の過程を比較し、日本において早

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				期英語教育の現場教員４３名にアンケートを行った結果を含め、分析を行うとともに、日本のEFL環境における識字学習の実践例（フォニックス学習など）を検証する。
20.多義語習得にカタカナ語が果たす役割	単	2019年5月11日	神戸英語教育学会2019年度定例会	EFL環境にある日本において、日本人英語学習者が偶発的に英語の語彙を学ぶことは、一つの例外を除いて非常にまれであると言えよう。その例外とは、いわゆる「カタカナ語」である。「ロマンチックでハートウォーミングなヒーリングドラマ」などといったテレビ番組情報など「カタカナ語」に触れない日は無いと言っても過言ではない。しかし、一見「英語」のようにみえる「カタカナ語」は英語では全く通用しない、あえて言うなら日本人英語学習者の語彙習得の妨げになることもあり、英語母語話者からは嘲笑されたり、毛嫌いされたりもする。では「カタカナ語」にはネガティブな側面しかないのだろうか？「カタカナ語」の存在を、英語語彙習得の側面から考察する。
21.How the learner of English store the multiple meanings of polysemy	単	2018年10月13日	ALAK The Applied Linguistics Association of Korea Seoul,Korea	（科研課題番号 K1702919)日本人英語学習者の多義語習得に関する一考察　これまでの研究結果に、アンケート対象者数と、調査対象の多義語数をあらたに追加し、結果を比較調査したもの。
22.Material Development of Teaching Vocabulary Based on Prototype Theory	共	2018年6月9日	MATSDA 2018 International Conference Shanghai, China	（科研課題番号17K02919）木村麻衣子・荒尾浩子 日本人英語学習者にとって習得が難しいとされる多義語のあらたな教授法開発をめざし共同研究者とともに様々な取り組みを行う中で、初めて「教材開発」の専門家が終結する国際会議での発表を試みた。視覚に訴えるページに仕上げるため、学習者の意識聞き取り調査を行い、サンプルを作成した。
23.Vocabulary Learning for Japanese Learners of English	共	2018年5月11日	GEN(Global Educators Network) TEFL International Conference Kuala Lumpur, Malaysia	（科研課題番号17K02919）木村麻衣子・荒尾浩子 プロトタイプ理論を応用した多義語習得のためのあらたな教授法開発をめざし語彙の意味分析、日本人英語学習者及び英語母語話者への習得順アンケート調査などを行っている研究の経過報告を行った。
24.How to help students to be autonomous learners -a case of nine Japanese college students	単	2017年06月30日	KATE International Conference 2017 Seoul, Korea	（科研課題番号 K1702919） 日本人英語学習者への効果的自律学習支援方法を提案するため、９ヶ月にわたりTOEICを題材に点数の伸びを「学習動機」として設定し、学習者へのアンケート／語彙学習を中心にパイロットスタディとして展開した内容の実践報告
25.On Phonological Skills of Early Starters in English	共	2016年11月12日	2016 PAC 25th International Symposium on English Teaching Join with ETA-ROC Taipei, Taiwan	荒尾浩子・木村麻衣子 早期英語教育経験の有無が日本人英語学習者の音韻習得に与える影響について「早期英語教育は日本人英語学習者の音韻習得に影響を与える」という仮説のもと、調査を実施した。２０名の日本人大学生の英文音読録音データを、２名の英語ネイティブスピーカー（アメリカ人・カナダ人）がルーブリック評価により判定し、影響の有無について統計手法で分析した結果を報告した。
26.The Study of Polysems -the case of Japanese learners of English	共	2016年7月8日	KATE International Conference 2016 Seoul, Korea	木村麻衣子 荒尾浩子 語彙の深さよりも語彙サイズを重要視する日本人英語学習者が多義語をどのように理解し、複数の意味を習得しているのか大学生６８名の協力を得て、学習者アンケートを実施し、プロタイプ理論を援用しながら多義語の複数の意味を図式化することを提案した。
27.Multicultural Japan and Easy English	共	2016年4月15日	International Conference on Applied Linguistics and Langauge Teaching Taipei, Taiwan	斉藤早苗・高垣俊之・木村麻衣子(三重県担当) 三重県、広島県を中心に、在留外国人の数の推移とともに、有事の際（特に災害）の言語サポートについて「やさしい英語」「やさしい日本語」という観点からの事例紹介及び提案を行った。
28.Investigating the	共	2015年9月	ALAK(Applied	木村麻衣子，荒尾浩子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
relationship between vocabulary size,depth and meaning developments of Japanese learners of English		19日	Linguistics Association of Korea) Seoul, Korea	日本人英語学習者の語彙意味発達と、語彙サイズ、深さの関係を調査した。 調査には、日本の中学検定教科書６冊を使用し、異なり語数・延べ語数・品詞分析を、Nationの分類手法をもとに行った。
29.多義語習得に関する一考察	単	2015年5月6日	神戸英語教育学会年次定例会	日本人英語学習者にとって英語学習を難しくしている要因のひとつと言われる多義語について語の成り立ち、テキスト内使用語、学習者アンケートなど多方面から検証する。
30.Motivational Messages contained in junior high school English textbooks approved in Korea and Japan	共	2013年10月27日	11th Asia TEFL International Conference, Manila Philippines	荒尾浩子・木村麻衣子 日韓テキストにおける学習者の動機づけに関わるトピックを抽出し比較した。Dorneyによる動機づけの分類を元にテーマをカテゴライズし分析
31.Minority languages in multilingual Japan -Improvement for Language assitance	共	2013年10月05日	Applied Linguistics Association of Korea International conference in Korea Busan, Korea	（科研課題番号23520706）斉藤早苗・高垣俊之・木村麻衣子 東京・三重・広島における多言語理解の調査及び、少数言語使用者への言語支援対策の実態調査報告
32.Exploring the types of vocabulary in English textbooks in Japan	共	2013年07月05日	The Korea Association of Teahcers of English 2013 International Conference Seoul, Korea	荒尾浩子・木村麻衣子 日本の中学で使用されている英語テキストの中から採択率の高い2種類を選び、使用語彙を調査。出版社、学年ごとの使用語彙のレベル、トークンを分析しNation のレンジソフトにかけ使用語彙の重複回数を計算　語彙の傾向を発表
33.Minority languages in Kyoto and Kobe	共	2013年06月11日	International Symposium on Bilingualism in Singapore	（科研課題番号23520706）斉藤早苗・高垣俊之・河原俊昭・キャロリンライト・木村麻衣子 京都・神戸における多言語支援の実態調査及び外国人居住者への聞き取り調査のまとめ
34.Minority Languages in Mie, Hiroshima	共	2012年11月24日	International Academy of Linguistic Law Chiang Mai, Thailand	(科研課題番号23520706）斉藤早苗・高垣俊之・河原俊昭・木村麻衣子 外国人居住者の実態調査を通じ、Easy Japanese, Easy Englishの必要性、外国人居住者にやさしい自治体とは何かを問い、新たな提案を行う。
35.A Study of Topics in Engilsh Textbooks for Mutual Understanding	共	2012年10月24日	The 3rd English For Business & Technology International Conference 2012 in Brunei	荒尾浩子・木村麻衣子 日韓における中学英語テキストにおいて異文化理解のためのテーマがどのように取り扱われているかを比較した。比較対象のテキストは日韓それぞれ3社ずつ計18冊である。　2011年度ペナン発表内容の継続
36.Cultural perspectives expected to be attained by EFL learners	共	2011年11月10日	The 4th Biennial International Conference on the Teaching & Learning of Enlgish in Asia in Penang Malaysia	荒尾浩子・木村麻衣子 女性の社会進出、障がい者の活躍など、なぜ英語のテキストで取り上げる必要があるのかというテーマに注目し、日韓中学英語検定教科書から抽出し、その共通点、相違点を分析した。
37.How to Support Students in the	共	2011年7月1日	The Korea Association of	荒尾浩子・木村麻衣子 2名の大学生の学習への自律性と英語力向上の相関を約11か月にわた

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
Development of Learner Autonomy in Learning English: a case study of Japanese university students			Teachers of English 2011 International Conference Seoul, Korea	り調査した縦断研究
38.A Study of Cultural Factors in Junior High-School English Textbooks Approved in Korea and Japan	共	2010年10月16日	2010 The Pan-Asia Conference Korea TESOL International Conference Seoul, Korea	荒尾浩子・木村麻衣子 日本と韓国で採択率１・２位の中学校英語教科書を１～３年次それぞれ文化的視点で分析し共通点及び相違点を解説。
39.韓国英語村の可能性ープサンキャンプのケースー	単	2010年5月1日	神戸英語教育学会　定例会	韓国英語村の実情をプサンの「グローバルビレッジ」の視察を元に報告。報告内容を「光」と「影」の２面にまとめた。村敷地内でAll in Englishを実施することの難しさ、学習格差を埋めるための工夫など、英語村村長へのインタビューも行うことができた。日本への導入、応用の可能性についても合わせて言及している。
40.韓国中学校英語教科書の特徴：日本との比較を中心に	共	2008年06月29日	中部地区英語教育学会　長野大会	川畑松晴・八田玄二・江利川春雄・室井美稚子・相川真佐夫・磯部ゆかり・木村麻衣子 中部地区英語教育学会アジア英語教科書プロジェクト3年目の発表。日本との比較対象として、ベトナム・カンボジア・中国・台湾・韓国各国の中学英語教科書を横断的に分析。シラバスの形態、教科書の分量、扱われている文法事項等の詳細を各担当者がそれぞれ報告発表。
41.TOEIC入門クラスにおけるアクションリサーチ	単	2008年04月28日	ＣＩＮＥＸ　定例会	ＴＯＥＩＣ入門クラスにおけるモティベーションをベースにしたアクションリサーチを実施した結果をアクションリサーチの基本技法に基づき段階的に報告　事前テスト・アンケート、事後テスト・アンケートをまとめリサーチの成果を発表
42.各国比較担当表研究報告	単	2007年10月06日	中部地区英語教育学会課題別プロジェクト第３回研究会	各国担当表を完成させるため、台湾、ベトナム、バンクラデシュ、韓国対象テキストの質的研究報告会が行われた。　木村は韓国担当のため、韓国中学教科書についての発表を行った。
43.課題別プロジェクト　アジア英語教科書比較	共	2007年06月24日	中部地区英語教育学会　三重大会	川畑松晴・八田玄二・相川真佐夫・江利川春雄・磯部ゆかり・木村麻衣子 中国・ベトナム・台湾・韓国そして日本、それぞれの中学校英語テキストを、各国比較表をもとに調査・分析、その特徴を発表。
44.韓日英語教育比較	単	2005年10月15日	中部地区英語教育学会三重支部例会	韓国語を母国語とする韓国人の英語学習方法を探り、効果的かつ日本人学習者にも応用可能な手法について発表した。日本人、韓国人それぞれの英語への母語転移（発音、書記素含む）についても言及。
45.効果的なTOEIC指導法に関する一考察　－Motivation strategyの側面から－	単	2001年03月	人文学会	TOEICというテストが注目を集めている昨今、大学での英語教育にもTOEICが大きく入りこんできた。ただ単に、高スコアを目指すだけでなく、英語に対する苦手意識を持っている学生を、モティベーションという側面から教室外でも自主的に英語に触れようとするオートノマスラーナーへと導く方法はないか、学生へのアンケート結果などとともに考える。
46.InputからOutputへースピーキング導入の一事例報告	単	1999年11月	人文学会	中学・高校では通常リーディング・リスニング等のInputを主体に授業が行われる。そこで培われた力を更に強化する為、大学及び短大ではOutputを中心の発信型に切り替える必要があると考えたが急な変更はあまり有用であると思われず、スピーキング導入の教授法を確立すべく約半年間にわたり学生の協力を得てアンケート調査等を行った結果を報告
47.英語を主専攻としない学生への英字新聞	単	1999年10月	日本時事英語学会	日本の国際化あるいは英語教育の充実が叫ばれる昨今、英字新聞からの情報をキャッチする力も必要と考え、英語を主専攻としないい

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
講読導入に関する一考察－モティベーションストラテジーの側面から－				わゆる「英語嫌い」の学生を対象にモティベーションの確立から実践への効率的な授業の構成を主にキャロルモデルを元に検証し、教授法を提案した。
48.多人数クラスにおける効果的英語指導法に関する一考察	単	1999年10月	人文学会	一クラス80名を超える大教室での授業をいかに効率よく実施していくかについての試み。計３クラスの協力を得て、英語に対する意識調査（好き嫌い・資格・希望等）を行いそのひとつひとつの回答への指導法を過去の文献等をもとに求め一年かけて観察した。
49.Man, Woman, Language	単	1994年06月	武庫川女子大学大学院院生会	1993年11月発行の、“Profectus”に投稿した、“English Language & Sex”に引き続き、英語における発話上の性差を考察した。兵庫県下在住の、英語を母国語とするスピーカーを対象にアンケート調査を行い、彼らの言語的性差に対する概念を、男女別の比率で表した。圧倒的に女性側が発話上の不便さを感じているという、興味深い結果がでた。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.Divisionレベルコンテスト	単	2025年4月19日	Toastmasters International Division93 Korean Speech Contest 2025	トーストマスターズ韓国支部　Divisionレベルコンテスト（韓国語の部）に、Seoul Japanese クラブ代表として出場し３位入賞
2.エリアレベルコンテスト	単	2025年3月30日	Toastmasters International Korea Area 14/B23合同コンテスト	トーストマスターズ韓国支部　エリアコンテスト（韓国語の部）に、Seoul Japanese club代表として出場し、１位を獲得
3.Effective Coaching Level 3 using presentation software	単	2023年7月23日	JETM トーストマスターズクラブ（ソウル）	プレゼンソフトを効果的に使用し、聴衆に内容をより的確に伝えることを目的に、７分間のプレゼンを行った。Best Speaker Awardを獲得
4.Effective Coaching Level 2 Persuasive Speaking	単	2023年6月11日	JETM トーストマスターズクラブ（ソウル）	聴衆を説得することを目的に、７分間のプレゼンテーションを行った。 Best Speaker Awardを獲得
5.Effective Coaching -Evaluation and Feedback-	単	2023年1月17日	Shin Osaka Leaders Toastmasters	Pathway Level 1-2 の７分間プレゼンテーションを実施
6.Researching and Presenting	単	2022年11月13日	JETMトーストマスターズクラブ（ソウル）	「二番目に好きなこと」というタイトルで、７分間のスピーチを実施 Best Speaker Awardを獲得
7.Let's RUN!（Speech title）	単	2022年11月3日	Toastmasters International District 76 日本地区内 DivisionF コンテスト	Toastmasters International クラブ内コンテスト（関西トーストマスターズクラブ）２位、Areaコンテスト１位で勝ち進み、DivisionFコンテストに出場し、３位入賞
8.Understanding your Communication Style	単	2022年11月	関西トーストマスターズクラブ	コロナ禍における対面授業からオンライン授業への移行について、自身の経験に基づく７分間スピーチを実施　Best Speaker Award獲得
9.Best Speaker Award	単	2022年8月1日	関西トーストマスターズクラブ	年間賞の投票があり、Best Speaker of the Year Awardを獲得
10.プレゼンテーション熟達 Level 1 アイスブレーカー	単	2022年5月27日	東京ハングルトーストマスターズクラブ	「自己紹介」を目的に６分間のアイスブレーキングスピーチを韓国語で実施　Best Speaker Award を獲得
11.Presentation Mastery	単	2022年5月22日	JETM toastmasters club（韓国ソウ	７分間のアイスブレーキングスピーチを韓国語で実施 title: My mentor Best Speaker Award を獲得

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
			ル)	
12.Korea Toastmasters, Area Contest	単	2022年3月20日	Korea Toastmasters International, Area Contest	Korea District ９３のArea Contest において、大会組織委員会の依頼で、当日のコンテストサポートを行った。
13.Understand your leadership style	単	2021年11月21日	関西トーストマスターズクラブ	Free yourself from unwanted biases というタイトルで、７分間のスピーチを実施　Best Speakerを獲得
14.Ice Breaking Speechの実践	単	2020年8月	関西トーストマスターズクラブ	Effective Coaching プロジェクト第１段プレゼンとしてIce Breaking を実施。 The purpose of this project is to introduce myself to the club and learn the basic structure of a public speech.
15.Table Topic Speechの実践	単	2014年1月	三重桑名トーストマスターズクラブ	Table Topic Speech(即興スピーチ) を行い、Best Table Topic speaker賞を獲得
16.Is Japan a Homogeneous Society?	単	2013年12月5日	三重桑名トーストマスターズクラブ	Is Japan a Homogeneous Society? をテーマに三重県津市における多言語掲示の実情及び外国人居住者に関する詳細データなどを発表
17.6分でわかる自己紹介	単	2013年8月5日	三重桑名トーストマスターズクラブ定例会	アメリカに本部を置くプレゼンテーション研究会日本支部（三重・桑名）定例会において、自己アピールのためのアイスブレーキングスピーチを行った。
18.「理解できない」を「理解する」	単	2011年3月18日	CINEX 異文化情報ネクサス研究会 I'NEXUS No.4	異文化交流の難しさと面白さを「韓国人と日本人」のコミュニケーションをテーマに、実体験から理論的にまとめ報告したコラム pp.63-64
19.自分を変える話し方	単	2008年3月18日	CINEX 異文化情報ネクサス研究会 I'NEXUS No.2	「自分を変える話し方」授業について、コミュニケーションの側面から現代学生の特徴を中心に「コラム」としてまとめた報告書。pp.91-93
20.アクションリサーチ実験参加	共	2007年4月～2007年9月	近畿大学三上明洋氏監修　アクションリサーチ実験参加	教員研修にアクション・リサーチを提唱している近畿大学三上明洋氏監修のアクションリサーチ実験にメンティとして半年参加した。メンターとともに半年間、担当英語科目の一つをアクション・リサーチの場と捉え、メンター・メンティの関係性およびリサーチのプロセスを学んだ。
21.TOEIC入門クラスの問題点及び解決策の模索	単	2007年3月25日	共通教育レポート　第２号	共通教育開講科目の一つ、「ＴＯＥＩＣ入門」について、授業のDos and Don'ts（すべきことと、すべきでないこと）を中心にまとめ、授業時に実施した、事前テスト・事後テストの結果をもとに授業を分析した、半期のクラス概要報告　pp.5-9
22.共通教育クラスを担当して	単	2006年12月25日	共通教育レポート　第１号	受講生の所属及び学年が多岐にわたる共通教育の授業を担当するにあたり、心得ておくべき項目と今後の課題及びその解決策の提案をまとめたもの。 pp.109-112
23.ユーモアスピーチの実践	単	2004年11月	トーストマスターズインターナショナル　Division 76	Toastmasters Club in-house contest 及び、division 76 area contest においHumours speech. ７分間という限られた時間の中で、いかに聴衆を魅了し、多く笑わせるかを競う。使用言語は英語。 division にて３位入賞
24.A2 speaking to Inform	単	2001年11月	関西トーストマスターズクラブ	上級者プレゼンマニュアルプロジェクト２の「聴衆に新しい情報を与える」をテーマにスピーチを実践。制限時間は１０分
25.A-1　Entertain the audience by relating a personal experience	単	2001年09月	関西トーストマスターズクラブ	上級者プレゼンマニュアルプロジェクト１の「聴衆を魅了する」をテーマにスピーチを実践。制限時間は１０分
26.B-10　Persuade with power to present the talk that persuade the audience to accept your viewpoint.	単	2001年08月	関西トーストマスターズクラブ	初級レベルプレゼンマニュアルプロジェクト10のスピーチ。プレゼンテーション（スピーチ）の目的３つ（聴衆を感動させる、聴衆に新しい情報を与える、聴衆を説得する）のうちのひとつ「説得」を試みるための制限時間１０分のプレゼンテーションの実践。
27.B-9 Persuade with Power	単	2001年01月	関西トーストマスターズクラブ	初級レベルプレゼンマニュアルプロジェクト９のスピーチ。視覚(55%）、聴覚(38%)、スピーチの内容(7%)、すべてから聴衆に訴えかけることを目的に実践　視覚補助の使用も含め、制限時間は７分
28.B-8 Get	単	2000年09月	関西トーストマス	適切にスピーチに合わせた視覚補助を利用することを目的に、初級

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
Comfortable with Visual Aids			ターズクラブ	マニュアルプロジェクト８スピーチの実践。制限時間は７分
29.世界遺産セミナー（マラウイの文化と生活）	単	2000年９月	芦屋国際交流協会	セミナーの逐次通訳
30.ドイツ紀行セミナー	単	2000年７月	芦屋国際交流協会	セミナーの逐次通訳
31.B-7 Research Your Topic	単	2000年06月	関西トーストマスターズクラブ	スピーチテーマを裏付ける資料を集めることを目的に初級マニュアルプロジェクト７スピーチを実践　制限時間７分
32.プレゼン評価者トレーニング	単	2000年3月	大阪トーストマスターズクラブ	プレゼンテーショントレーニングの一環で、プレゼン評価者としてのスピーチ実践
33.プレゼン評価者トレーニング	単	1999年10月	大阪トーストマスターズクラブ	プレゼンテーショントレーニングの一環として、プレゼン評価者スピーチの実践
34.B-6 Vocal Variety	単	1999年10月	関西トーストマスターズクラブ	声量、イントネーションなど「声」に注意を払うことを目的に初級マニュアルプロジェクト５スピーチの実践　制限時間７分
35.Prepared speech の実践	単	1999年5月	大阪トーストマスターズクラブ	マニュアルに従い準備スピーチを実践（制限時間は１０分）
36.名塩紙紹介ビデオ	単	1999年5月	西宮国際交流協会	西宮国際交流協会製作の「名塩紙」紹介ビデオ英語版のナレーションを全編担当。
37.Club In-house Humorous Speech Contest	単	1999年2月	大阪トーストマスターズクラブ	全国大会にむけたクラブ内コンテスト（テーマはユーモラススピーチ）クラブ内で、２位入賞し、エリアコンテストにすすむ
38.B-5 Your Body Speaks	単	1999年01月	関西トーストマスターズクラブ	ジェスチャー、顔の表情などノンバーバルな要素に注意を払うことを目的に、初級マニュアルプロジェクト５スピーチを実践　制限時間７分
39.B-4 How to say it	単	1998年06月	関西トーストマスターズクラブ	語彙選択を含め正しい表現で聴衆にメッセージを伝えることを目的に初級マニュアルプロジェクト４スピーチを実践　制限時間７分
40.B-3 Get to the point	単	1997年12月	関西トーストマスターズクラブ	明確な目的を持ち聴衆にアピールすることを目的に初級マニュアルプロジェクト３スピーチの実践　制限時間７分
41.スポケーン市ホスピスボランティアマニュアル	単	1997年11月	西宮国際交流協会	マニュアルの翻訳
42.B-2 Organize your speech	単	1997年08月	関西トーストマスターズクラブ	聴衆が理解しやすい構成を考えることをテーマに初級マニュアルプロジェクト２スピーチの実践　制限時間７分
43.Table Topic Speech の実践	単	1997年7月	大阪トーストマスターズクラブ	Cat or Dog? というテーマでTable Topic Speech(即興スピーチ）を行った。Best Table Topi Speaker賞を獲得。
44.B-1 The Ice Breaker	単	1997年04月	関西トーストマスターズクラブ	聴衆に自分をアピールする。をテーマに初級マニュアルプロジェクト１スピーチの実践　制限時間６分
45.Table Topic Speech の実践	単	1996年12月	大阪トーストマスターズクラブ	Table Topic Speech(即興スピーチ）を行い、Best Table Topic speaker賞を獲得
46.全米防災対策機構マニュアル	単	1995年8月	西宮国際交流協会	マニュアルの翻訳
６．研究費の取得状況				
1.科学研究費補助金	共	2021年4月1日～2024年3月末日	科学研究費補助金（基盤研究C）研究分担者	代表者：荒尾浩子 分担者：木村麻衣子 「小学校英語識字難民化リスク回避のためのOGメソッド型マルチ戦サリー指導法の開発」 課題番号：21K00785 小学校英語で児童が「読むこと」「書くこと」を学ぶ際の学習効果を促進すべくマルチセンサリーを用いた識字指導方法を開発する。２０２０年度から教科化された英語では、５、６年生は、英語で読み書きすることが求められている。新出英単語の文字に対処する際、学習者は自分の優位な感覚に依拠しながら、英単語の文字を学習する。実際の英語授業では児童は自身の学習スタイルに合わない方法で英単語の識字指導をされることがあり、過度な認知的負担から、英語の読み書きに困難が生じている。異なる学習者の学習スタイルを尊重し、感覚優位性を念頭に、マルチセンサリーを用いた英語の識字指導方法を開発し、教育現場へ還元する。
2.科学研究費補助金	共	2018年4月1日～2021年3月末日	科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）研究分担者	代表者：荒尾浩子　分担者：木村麻衣子 「単語認識発達ステージモデルに基づく小学校英語における識字指導法の開発」

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
				課題番号:18K00828 単語発達モデルを実践的指導方法につなげるための、早期英語教育における式辞能力習得の認知的負担や過程を子どもの発達科学における既存の理論、教育実践記録等をもとにレビューする。また英語圏で識字指導の一環で使われるsnapwordsというイメージや体の動きを活用した方法の日本の英語教育への活用を考察する。同時に日本の早期英語教育指導者、小学校における英語指導者の英語の単語を早期英語教育で見せる際の方法論や文字指導に関する知識や意識などの聞き取り調査を行うなど質的研究を行う。
3.　科学研究費補助金	共	2017年4月1日～2020年3月末	科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）研究代表者	代表者：木村麻衣子 分担者：荒尾浩子 「プロトタイプ理論に基づく意味ネットワークの可視化によるあらたな多義語教授法の開発」 課題番号：K1702919 英語母語話者の語彙習得と、日本人英語学習者の語彙習得過程の比較を行う。大規模アンケートを実施し、両者の相違点・類似点をカテゴリー化する。特に多義語の意味の習得過程に着目する。日本人英語学習が複数の意味を持つ語彙（多義語）の、どの意味を中心に置く傾向にあるのか、また、そこからどのように周辺の意味へと派生しているのかを調査し、「中心的意味から周辺の意味への派生パターンを学習すると、未知語について、中心的意味を事前に与えられれば、周辺の意味が想起しやすくなる」という仮説をたて、検証し、派生パターンを可視化することで、日本人英語学習者にとって「苦行」とされる語彙習得の一助となるあらたな多義語教授法を開発することを目指す。
4.科学研究費補助金	共	2014年4月1日～2017年3月末日	科学研究費補助金（基盤研究C）研究分担者	代表者：斎藤早苗　分担者：高垣俊之・キャロリンライト・木村麻衣子 「多言語社会日本に向けて：外国人住民支援の実態把握を背景とした言語支援推進と普及策」 課題番号：26370740 世界経済のグローバル化及び日本における外国人の受け入れ環境の変化を背景に日本に住む外国人住民数はこの30年で大幅に増え、2016年現在で230万人の外国籍住民がいるとされている。経済不況や震災などの影響で減少した時期もあったが、1980年代には100万人にも満たなかった数が、1990年代で200万人を突破し、現在もその数を維持している。このような現状を踏まえ、本研究では多言語・多文化社会を迎える日本における外国人住民のための積極的な言語支援推進に向け、その普及策を究明し、社会に還元することを目指す。
5.科学研究費補助金	共	2011年4月1日～2014年3月末日	科学研究費補助金（基盤研究C）研究分担者	代表者：斎藤早苗　分担者：河原俊昭・高垣俊之・キャロリンライト・木村麻衣子 「日本におけるマイノリティ言語に関する実態把握と言語支援開発」 課題番号：23520706 (1)現地調査のためのアンケート及びインタビューの調査票の作成と検討、(2)10の地方都市地域における外国人住民のための言語支援の実態の把握のため地方自治体の取り組みと外国人住民が直面している日常生活での諸問題問題の把握の2つを柱に、マイノリティー言語を母語（母国語）とする外国人住民の言語支援を実施する方法を確立する。事前調査の結果、様々な問題や不便さの中でも特に「表現の平易化」と情報が行き届いていないことが明らかになった。従って、地方自治体をはじめ、教育関係者や個々の日本人が外国人住民が健全にそして十分に参加できる共生社会づくりに向けて簡略化した言語の提供と生活に必要な情報の普及に関して対応策を打ち出すことを提言することを目指す。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2024年4月1日～現在	Seoul Japanese Toastmasters Club VPE
2.2023年12月1日2024年12月8日	Global Educators Network 第8回国際大会事務局長

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
3.2023年7月1日～現在	東京ハングルトーストマスターズクラブ
4.2022年4月1日～現在	異文化コミュニケーション学会
5.2021年11月1日2024年3月31日	JETM トーストマスターズクラブ（韓国ソウル）
6.2021年8月1日～2022年12月31日	COEXトーストマスターズクラブ（韓国ソウル）
7.2020年4月1日～2023年6月30日	関西トーストマスターズクラブ
8.2019年9月1日～現在	日本言語テスト学会
9.2019年4月1日～2021年3月31日	大学基準協会 短期大学評価委員会委員
10.2018年12月1日～現在	GEN (Global English Network in Asia)
11.2018年10月～現在	神戸英語教育学会紀要編集委員
12.2016年3月～現在	「言語と人間」研究会
13.2012年04月～現在	ことばの科学会
14.2010年10月05日～2017年5月	KOTESOL(Korea Teachers of English to Speakers of Other Languages) 韓国英語教育学会
15.2008年04月～現在	日本アジア英語学会
16.2008年4月～現在	神戸英語教育研究会（事務局長：2010年４月～2017年５月・2021年4月～　/　理事：2017年５月～）
17.2007年4月1日～2009年3月31日	三重県国際交流協会語学ボランティア
18.2007年04月～現在	映画英語教育学会
19.2006年4月～現在	中部地区英語教育学会（2007年４月～2013年３月三重支部会計担当）
20.2006年04月～現在	全国語学教育学会
21.2006年04月～現在	社会言語科学会
22.2001年04月01日～2010年03月31日	日本時事英語学会
23.2000年4月1日2007年3月31日	KICC神戸国際交流協会日本語ボランティア講師
24.1997年4月1日2000年3月31日	西宮国際交流協会語学ボランティア
25.1994年04月～現在	言語文化学会